

【研究課題名】

ヒトゲノム・遺伝子解析による肝疾患の網羅的検討

【研究概要】

肝疾患患者の手術検体から DNA を抽出し、次世代シーケンサーを用いて網羅的解析を行う。解析によって疾患に特徴的な遺伝子異常を調べる。また、異常のある遺伝子の中から細胞の癌化を引き起こす原因遺伝子を見つけ出し、見つかった遺伝子については、分子生物学的手法を用いて機能解析を行い、癌発生メカニズムの解析、および新規治療薬の開発につなげる。

【本研究の目的・医学的意義】

肝細胞癌はウイルス性肝炎を背景として出現することが多いが、その予後及び治療効果は様々である。近年、次世代シーケンサーの登場により網羅的ゲノム解析が可能となり、C 型肝炎やある種の癌では、特定の遺伝子により治療反応性や副作用出現の程度が予想できるようになってきた。肝疾患患者において網羅的研究を行うことにより、既知の遺伝子のみならず、新たな遺伝子を見出すことが可能であり、その結果の日常診療に与えるインパクトは非常に大きいと考える。

【研究責任者】

市民総合医療センター 輸血 講師 野崎 昭人

【分担研究者】

横浜市立大学学術院医学群消化器内科学教室		教授	前田 慎
横浜市立大学学術院医学群遺伝学教室		教授	松本 直通
横浜市立大学学術院市民総合医療センター	臨床研究推進センター	教授	田中 克明
同	同	客員教授	森田 智視
同	同	助教	坂巻 顕太郎
同	病理部	教授	稲山 嘉明
同	臨床検査部	教授	宮島 栄治
同	消化器病センター	准教授	沼田 和司
同	同	助教	福田 浩之
同	同	助教	近藤 正晃
同	同	診療指導医	守屋 聡
同	同	診療指導医	下山 友
	消化器病センター	助教	杉森 一哉

【試料提供協力】

公立大学法人横浜市立大学附属病院 消化器・腫瘍外科学、外科治療学